大分県書道　令和５年度後期　特別資格試験　課題

（令和６年２月27日㈫必着）

種類	用紙の大きさ	課題	備考
1、漢字条幅	半切（縦に使用）	林色暁分残雪夜　角聲寒奏落帆時	林色暁に分かつ残雪の夜 角声寒に奏す落帆の時 （釋靈一）
2、楷書	半紙	柴門靜可憐 （半紙に二行に書く） 柴門靜 可憐	柴門静憐れむ可し （成仲龍）
3、行書	半紙	柴門靜可憐	法帖名を受験票・出品票に書くこと。
4、草書	半紙	柴門靜可憐	難波江のあしのかりねのひとよゆゑ みをつくしてや恋ひわたるべき 皇嘉門院別当（『千載和歌集』八〇七　平安時代後期）
5、隷書	半紙	柴門靜可憐	パレットに緑の風の溶かれをり （黛まどか）
6、篆書	半紙	柴門靜可憐	①行書で書くこと。 ②行変えは自由。 ③市町村名、姓名（または号）を書くこと。
7、随意	半紙	県書道の課題以外の古典を臨書する。（五～六字）	①行書で書くこと。 ②各行の文字数や行数などの配列は、自分で考えて書くこと。 （大分合同新聞の記事より）
8、仮名条幅	半切（縦に使用）	難波江のあしのかりねのひとよゆゑ みをつくしてや恋ひわたるべき	
9、仮名	半紙（料紙）	パレットに緑の風の溶かれをり	
10、調和体	半紙	寒中お見舞い申し上げます 暖冬とはいえ、さすがに冷え込む今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。おかげさまで私ども家族一同は平穏無事に過ごしておりますので、ご安心ください。 令和六年一月 （市町村名　姓名又は姓号）	
11、実用書	半紙	兼好法師は『徒然草』で正月の朝について「かくて明けゆく空のけしき、昨日に変りたりとは見えねど、ひきかへめづらしき心地ぞする（こうして明けた空は、昨日と変わったようには見えないが、特別な心地がする）」と記している。初日の出を拝む習慣は明治以降で、それ以前は四方拝といって東西南北を拝んでいた。 （市町村名　姓名又は姓号）	
12、硬筆	本会競書規格用紙（5・6年　中学　一般用）		